

令和8年度第1回
さっぽろ建設産業活性化推進協議会

議 事 録

日 時：2026年6月23日（火）午前10時開会
場 所：ホテルモントレエーデルホフ札幌 12階 ルセルナホール

1. 開会挨拶（小泉建設局長）

建設局長の小泉でございます。本日は、ご多忙の折、本協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様におかれましては、平素より本市の建設行政及びまちづくりの推進に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに深くお礼を申し上げたいと思います。

さて、昨今の建設業を取り巻く環境は、構造的な担い手不足、さらには複合的な要因が重なりまして、依然として厳しい状況が続いているわけでございます。

特に、昨年は札幌市内においても最高気温が35.7度を記録するなど、気候変動に伴う激甚化する猛暑への対応、昨今の中東情勢等に起因する資材高騰及び今後の資材の調達等の懸念もございます。さらには、AI等の最新技術に対する迅速な対応も求められ、1年前にはなかなか予見し得なかった状況が起こっております。

このような先行きが不透明な状況下にあっても、官民が一体となって課題や情報を共有し、施策を力強く推進するため、昨年3月にさっぽろ建設産業活性化プラン2025を策定し、担い手の確保や生産性向上に向けたいろいろな事業を進めております。

本日は、プラン策定から1年が経過しましたので、各指標の進捗状況を確認させていただくとともに、市民アンケートや各企業の皆様からいただいた貴重なご意見を基に、建設業の社会的イメージの向上や採用に関する課題への対応など、今後の建設産業の活性化策について活発な意見交換ができればと思っております。

本日は、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら、有意義な時間となるよう期待いたしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 開会挨拶（北海道大学 高野名誉教授）

皆さん、おはようございます。個人的なことになるのですが、今年の3月で北海道大学を退職いたしました。この間、皆様方には大変お世話になったところでございます。ありがとうございました。

そして、正式には今年の6月からですが、皆さん方にご尽力をいただきまして、一般社団法人地域社会資本マネジメント研究所をつくりました。

内容としては、名前にもありますように、建設マネジメントに関わる取組を、特に北海道、札幌という地域を対象に行っていこうと考えております。その活動の中では、今日お集まりの皆さんにいろいろな形でご尽力いただき、また、一緒にできることはやっていけたらと思っています。

そういった活動についても今後お世話になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、ただいま小泉局長からお話ございましたように、活性化プラン策定から1年が経過しましたが、非常に緻密に進捗管理をしていただいておりますので、その進捗状況の確認と、札幌市と各団体の皆さんのたくさんある取組のうちの代表的なものをご紹介いただき、さらにアンケート調査もでございます。大変盛りだくさんの内容になりますが、自由闊達に意見交換をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 意見交換（進行：北海道大学 高野名誉教授）

○北海道大学）高野名誉教授

それでは、次第3のさっぽろ建設産業活性化プラン2025の進捗管理について、事務局から資料3のご説明を頂戴します。

事務局から説明をお願いいたします。

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料3：さっぽろ建設産業活性化プラン2025の進捗管理について

○北海道大学) 高野名誉教授

ただいまご説明をいただきました進捗管理について、ご質問やご意見等があれば承りたいと思います。

最後にご説明いただきました68.3%という賃金割合の比較ですが、これは、担い手三法の改正の中で、こういうところもちゃんと調査をして設計単価どおりに払われていることを確認していくという方向を打ち出されておりますが、その数字というのは、その過程や計算の考え方によってなかなか難しい面があるかと思いますが、今回、一つの成果としてこういう数字を出していただいたということだと思います。

○建設コンサルタンツ協会 北海道支部

評価の欄の評価の仕方について、目標を達成しているからいいのか、それとも、数値が上がっているからいいのかということなのですが、数値が下がっている場合がありますね。例えば、債務負担行為を活用した工事の早期発注というのは、0.01ポイント、数値は下がっていますけれども、0.8以上が目標だからこういう評価ということなのか、評価の仕方を教えていただければと思います。

○事務局

評価の考え方ですけれども、2029の一番右に目標とございますけれども、こちらはプランの目標です。今年は1年目ということで、まだ途中の状況ということになります。

今お話のありました3-2-1の債務負担行為につきまして、実績としては0.82ですが、策定時の0.83からは少し下がっていてもほぼ横ばいということで、矢印としては横に引っ張っております。

○北海道大学) 高野名誉教授

ほかにはいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

4. 意見交換(進行：北海道大学 高野名誉教授)

○北海道大学) 高野名誉教授

では、次に進ませていただきます。

意見交換の議題1、令和7年度 of 取組報告及び令和8年度 of 取組予定です。

まず、(1)市の取組状況及び(2)業界の取組状況について、事務局からご説明を頂戴したいと思います。

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料4：市の取組について
- ・資料5-1：各団体の取組

○北海道大学) 高野名誉教授

ただいま、資料5-1で概要をご説明いただきましたけれども、特徴的な取組をご紹介いただければと思います。まずは、札幌市管工事業協同組合さんからお願いいたします。

○札幌市管工事業協同組合

資料5-2をご覧ください。

当組合における新たな事業として、まだ手探り状態ではあるのですが、この4月から「次代へつなぐプロジェクト」を始めました。一昨年、当組合はちょうど50周年を迎えまして、次の50年に向けて何ができるのだろうかといったところで、やっぱり技術の継承だとか人材確保ということがありましたので、時間はかかったのですがいろいろ詰めて、まずはこのような形で動いてみようということになっております。

推進方針としては、①技術の継承、地域性を考慮した技術、技能を次世代へ伝える、②人材育成、新規就労者、若手従業員のキャリア形成を支援、③雇用確保、将来の担い手確保を目指し業界の魅力を発信、という三つをやろうということで進めております。

ちょっと戻りますが、私どもの組合でいろいろなインターンシップとか技術講習などを細々とやっていたので、それを少し分かりやすくまとめて、新たに入ってきた人たちに将来像が明確に分かるような形で進めていこうということです。

取りあえず、5か年計画ということで、今年初めてやるので、1年目は従業員の初心者講習会をしようということになっております。

初心者講習会の内容は下の欄に書いていますが、実はもう7月15日から始めるのですが、毎月1回の計4回を計画しています。我々の仕事に関係ある、さわりの部分しかできないのですが、水道とは何か、図面の見方やサドル付分水栓の配管接合、給水装置の申請の手続、排水の手続、水抜栓の構造、そしてマナー講習ということで、この業界はこういう仕事なのだというのを計画的に教育しようということです。

2年目に入りますと、組合主催の各種講習会で、凍結の解凍の仕方やねじの切り方というちょっと細かいことをやろうと考えています。

3年目以降になると、いよいよ資格を取ろうということで、給水装置の配管技能検定会がありますので、その講習会をやってみたり、次の年には技能士の資格を目指すということで、同じように排水用ポリエチレン管の継ぎ手の施工の講習会など、そういうものをいろいろやっていきます。これも現在はやっておりますので、それを目指してもらおうということです。

その後、施工管理の会社もありますので、まずは2級の管工、土木を受けるので、そのためには勉強しましょうということで、若い子たちに入って5年間のスケジュールを明確にして目標を持ってもらおうということです。それをやることで、5年後には、現場の主力とまではいえないかもしれませんが、働いている姿を想像してもらえるようにしようということでつくってみました。

次に、裏のページです。

雇用確保ということで、7月にすぐ行いますが、経営者を集めまして、雇用確保に関する講習会です。どうやったら人が集まるのかということで、お金をかければ集まるという感じではあるのですが、そうではなく、魅力を訴えて、ハローワーク等にも今はこういう形でやっているということを勉強してもらおうと思っています。

ほかにもいろいろと意見がありまして、これから検討していくのですが、次代を担う経営者ということで、2代目、3代目、あるいは管理職になるような若い方々を集めて、いろいろな講習会を開催しようと考えています。今はやりのハラスメントは駄目ですよとか、もっと突っ込んで財務諸表の見方はこうですよとか、いろいろな要望に応えた講習会をしていこうと思っています。まだ1年目の始まりですので、来年になりますと今年受けた人が2年目の講習、新しく入ってきた人も初心者講習を受けるということで、1年目、2年目、3年目、4年目、5年目とうまく回っていくことをやっていこうという取組を始めたばかりになります。

拙い説明ですが、私からは以上です。

○北海道大学) 高野名誉教授

大変精力的な取組だと思うのですが、今年7月からの初心者講習会には何人ぐらいの参加が予定されているのですか。

○札幌市管工事業協同組合

30名です。まだスタートなので、1年目の子もいれば、二、三年しかやっていない中途の人も含めて取りあえず参加するということで、私どもの組合は小さい会社が多いものですが、自分たちではなかなか教育できないので、こういうものを利用してやってみようという会社が多かったということで、びっくりしております。

○北海道大学) 高野名誉教授

講師は組合員の方ですか。

○札幌市管工事業協同組合

事務局の職員と組合員、それから、水道局のOBもいますので、いろいろな話ができると思っています。

○北海道大学) 高野名誉教授

どうもありがとうございました。続いて、札幌電設業協会さんからお願いいたします。

○札幌電設業協会

団体の取組の中でA Iの話がばらばらと出ていると思うので、協会全員にアンケートを取るということはしていないのですが、私の感想も含めてお話をしたいと思います。

建設業に特化したA Iということで、私どもは国内の会社がつくっているものを使っております。建設業に特化しているので、割と使い勝手はいいのですが、効率化というよりも、相談相手といえますか、いろいろな調べ物をするときにすぐ出てくるというメリットがあるので使っているというのが本当のところですよ。

私どもの会社では、普通のA Iといえますか、生成A Iも含めて、ちょっと慎重に構えていまして、もう少し様子を見たいと思っています。生産性を本当に変えていくためにはA Iを使わざるを得ないと思っはいるのですけれども、逆に、会社全体の技術力とか安全に対する感度などを果たしてA Iに代替できるのだろうかと考えていまして、社内でA Iの利用規定を整備して、A Iを有料版で使うという前提で、最後の詰めをしているところです。

先ほど、A Iを使わざるを得ないと言いましたが、A Iに使われるような技術者となったら技術力の衰えというマイナスが出てくるだろうと心配していますので、間違ってもそうならないように注意していきたいと思っています。

特に今、書類の簡素化が進んでいますのでその負担は減っていますけれども、書類について一部を代替するという方法をやってみてもいいと思っています。ただ、安全面などの書類をA Iに任せていいのかというあたりは、これから社員の教育と併せてもう少し詰めていきたいと考えています。

協会内で話をすると、書類の代替で使いたいとか、安全書類の簡素化ということでやりたいという話が結構多いです。

以上、感想も含めて申し上げました。

○北海道大学) 高野名誉教授

電設業協会さんには、資料5-1にあるように、非常に多くの事項を書いていただきました。7ページには、生産性の向上ということでA Iの話があったり、その次の新技術活用というところにも生成A Iを活用した新スキームの構築と書かれています。そういうものをどういうふうに導入すべきか、導入する上での課題は何か、そういったことについてご議論を始められているということです。

小さいところで言うと、挨拶文をどう書くか、手紙やメールをどう書くかということも含めてA Iの利用がどんどん進んでいるわけですが、それを本流の部分にどう生かしていくかというのは非常に大きなテーマではないかと思います。

それでは、2団体からお話を頂戴したところで、札幌市から受け止めについてお願いしたいと思っています。

○水道局給水部長

札幌市管工事業協同組合さんから、「次代へつなぐプロジェクト」ということでお話をいただきました。

我々も、技術・技能者の確保については、水道を将来にわたって守っていくということで非常に大切な課題だと認識しているところでございます。特に水道は、専門的な事柄が多くて、今回のプロジェクトのように、特化した講義をやっていただくというのは大変ありがたいと

思っていますし、心強く思っているところでございます。

水道局といたしましても、日々、札幌協さんとは連携を取らせていただいております、先ほどOBからの講義というお話もありましたが、このプロジェクトに関して何か協力できることがあれば積極的に携わっていきたいと思っておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○北海道大学) 高野名誉教授

ほかに、維持担当部長さんから何かございませんか。

○建設局維持担当部長

先ほど札幌電設業協会様からのA I についてのお話のなかで印象的だったのが「安全に関する感度」という言葉でして、A I に代替できるものとできないものの判断のポイントになると感じました。そのような点も踏まえて、業界も我々市役所も、有効なところに活用していくのが良いのではないかと思います。

○北海道大学) 高野名誉教授

続いて、設備担当部長さんはいかがでしょうか。

○都市局設備担当部長

まず、札幌協さんにつきましては、一昨年から夏休み親子土木見学ツアーに都市局も参加させていただいているのですけれども、札幌協さんにご協力いただきまして、配管の接続など、子どもたちに実演していただいております。ご協力いただいておりますことに感謝しております。ありがとうございます。

また、電設業協会さんのお話ですが、資料を読ませていただきますと、施工管理ツールやクラウドを活用して生産性の向上に努められておりますし、さらに、より効率的に運用するために研修なども行われているなど、様々な内容に取り組まれているということです。

担い手不足への対応としましては生産性の向上は必須であると考えておりまして、様々な取組を積み重ねていくことが必要であると思っております。

札幌市としましては、従来からのASPに加えまして、今年度からは、試行ではありますけれども、遠隔臨場にも対応するなど、生産性の向上に努めてまいりますので、官民連携して取組を実施していければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○北海道大学) 高野名誉教授

資料5-1には、各団体からのいろいろな取組について網羅的に書かれているのですが、時間の関係で特徴的なもののみご説明をいただきました。そのほかに、これについてぜひ説明しておきたいとか、これはどういうことかというご質問などがあればお受けしたいと思います。が、いかがでしょうか。

札幌市の方からもご質問等あればお願いしたいと思います。

先ほど、管工事業協同組合さんから、組合の中でいろいろな講習をやっているというお話がありましたけれども、複数の団体がコラボをしてやるとか、もっとたくさん集まった形で何かをやるとか、そういうこともできたらいいなと思っております。管工事さんだけでも30名近い方が参加されるということですから、まとまるとなると非常に多くの方になるということになるかもしれませんが、設立された私の研究所でもそういうことも可能であればというふうを考えていますので、それぞれの団体のコラボみたいな活動ができると非常に有意義で、なおかつ運営もやりやすい面が出てくると思っております。

皆さんからご質問、ご意見等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学) 高野名誉教授

それでは、次の議題に移りたいと思います。

議題2の市からの情報提供ということで、アンケート結果についてのご説明をお願いします。

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料6-1：市民アンケート結果
- ・資料6-2：企業アンケート結果

○北海道大学) 高野名誉教授

企業及び就業者の方々にアンケート調査をお願いしましたが、お忙しい中、いろいろな形でご協力をいただいて、ありがとうございました。

ただいまのご報告に対して、団体からのご意見、ご感想、あるいは追加でコメントなどがございましたらお願いいたします。

○札幌建設業協会 札幌部会

まず、質問です。

LINEアンケートの1問目ですが、回答者の立場で、55%は就業者ということですがけれども、この55%の就業者のうち、建設業界はどれぐらいを占めているのですか。建設業界に就業している人の割合です。

○事務局

LINEのアンケートの中では、こういった職種かというところまでは聞いておりませんので、建設業がどれぐらいの割合かは分からない状況です。

○札幌建設業協会 札幌部会

分かりました。LINEのアンケートなので、すごく回答しやすいフォーマットですから、サンプル数もたくさん集まってよいのかなと思うのですがけれども、分析するに当たって、建設業界の外部の人にどういうイメージを持たれているかを知ってもらうためには、就業者の55%の中で建設業に従事している方がどれぐらいかということ把握できる仕組みでアンケートを取られたほうがよいと思います。その方を除外して見たときに、業界に全く携わっていない方の生の意見がもっとリアルに出てくると思いますので、次回以降のLINEアンケートではそこら辺をもう少し工夫なさったほうがよいのかなという感想です。

その上で、今回のアンケート結果を拝見させていただきまして、特に、企業アンケートに関しましては、資料6-2に出ていましたけれども、内部の人間としては業界に対する興味や関心が低く就職の選択肢に入っていないと感じるというのが8割ぐらいという数字をまざまざと見せられて、やはりそういうふうに使われているのかなと。ただ、就業してくださっている仲間の皆さんの満足度は7割から8割ぐらいですから、建設業界の仲間の皆さんには比較的満足していただいているのかなというギャップが非常にはっきりと見てとれると感じました。

資料6-2を見た上で6-1のアンケート結果を見て思ったことは、業界のイメージについてなのですが、まちなみをつくる仕事、社会に必要、屋外で体力が必要というものもありましたが、こちらでも、やりがいのある職業であるとか、女性が増えてきているというところは著しく低いと感じています。ただ、そのイメージを持つきっかけというところを見ると、札幌市の資料でも青色に囲っていらっしゃるんですが、工事の現場や囲いを見たというのは、世代のばらつきがあまりなくて比較的高いというところに着目しました。

ですから、我々がもっと訴えたい業界のイメージについて、工事現場や現場の仮囲いを使って統一的にPRできるということがあればよいのかなと感じました。

例えば、以前、残念ながら招致はできませんでしたが、北海道札幌冬季オリパラに関しては、札幌市と札幌商工会議所をはじめとする経済団体等がタッグを組んで、主に建築現場になってしまうのですが、過去に、建築現場の仮囲いにオリパラのスポーツ選手に出ていただい

て大きなイメージ図を展開したことがございました。仮囲いとなると建築の現場が主になってしまうと思うのですが、土木や一般の工事においても、やっていらっしゃる会社もありますが、工事看板の裏面とか、土木でもデジタルサイネージを使っている現場も徐々に増えてきています。そういったものを使って、業界全体として訴えたいことを統一して盛り上げられるようなツールやパッケージを団体に製作したり提供したりということができれば、チ・カ・ホなどでよくやられている広告ジャックのようなインパクトを与えられて、建設業が災害や除雪で対応しているとか、若者や女性もやりがいを持ってやっているというイメージを、地道ですけれども、一般の方々に伝えていくことができるのではないかと感じました。

助成金に関しても、メニューによって浸透している浸透していない、使われている使われていないがありましたので、例えば、そういったものの製作にかかる費用を助成するというメニューを助成金の中に拡充して、そういう広告ツールを各社、各団体が使いやすくしていくということも工夫の一つとして考えられるのではないかと感じました。

○北海道大学) 高野名誉教授

ただいまのご発言を受けまして、市の方からお願いいたします。

○建設局土木部長

様々なご意見やアイデアをいただきまして、ありがとうございます。

LINEアンケートに関しまして、私どもも改善できるところはしていく必要があると考えておりますし、そういった中でご意見をいただければと思います。改めて、他の団体の皆様方にもご意見等があれば承りたいと思いますので、事務局のほうに申し伝えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

また、企業アンケートを含めて、いろいろご意見をいただきました。業界のイメージを上げていくというのは我々も当然にやっていかなければならない必要なことだと思っておりますし、そういった中で、現場での周知ということが少し効果があるのかなというお話だったかと思えます。

細かいことを言うと、屋外広告の関係だとかちょっといろいろあるのですけれども、どういうことができるのかというのは、これから引き続き検討、研究していければと思っております。よろしくお願いいたします。

我々としても、持続可能な建設業の発展、維持につながるよう業界への興味・関心を高めていくため、今はちょっと低い現状かと思えますけれども、資料4でご説明させていただいた取組や、資料5のように業界の皆様方にいろいろ取組んでいただいているということがありますので、引き続き協力していろいろな取組をしていければと思います。

その関係で事務局からご連絡などを差し上げることがあるかと思しますので、皆様方にも引き続きご協力、ご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○北海道大学) 高野名誉教授

企業アンケートで、助成制度を認知している割合が思った以上に低い気がします。助成は相当前から続いているのですけれども、いろいろな助成制度を各企業の方に知っておいていただかないと活用されないということになるので、これは非常に大きな課題だと思っております。

それから、LINEアンケートのQ3でイメージを教えてくださいという質問がありますけれども、憧れる職業、優しい人が多いというのがほかの質問に比べて少ないです。多分、憧れる職業というのは、50代の方が三、四名答えている感じで、10代の方は1人ぐらいですね。逆に言うと、この少ない人たちがどうして憧れることになったのか、それから、優しい人が多いというのは、10代の方が意外に多いのです。どういうことで優しい人が多いというふうになったのか、ちょっとへそ曲がりなやり方ですが、こういう人たちのきっかけをたどっていくと、優しい人が多いとか憧れる職業になるようなきっかけが潜んでいるかもしれないと思って見ておりました。イメージというのは、よく知らない人のイメージもあるでしょうし、知り合いとか家族の方からくるイメージもあるでしょうし、千差万別だと思いますが、こうい

うものをヒントに何かできればと思っています。非常に貴重な資料だと思っておりました。

ほかの企業、就業者アンケートもありましたけれども、29歳以下の技術者にしても技能者にしても少ないという会社が非常に多くなっているのです、20年後を考えたときには大変厳しい状況ということになると思います。

ほかにお気づきの点はございませんか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学) 高野名誉教授

それでは以上で本日の議題については終了となりますので、進行を事務局にお返しします。

以 上